

## 英語台詞の日韓対訳集における中断節の特徴分析\*

金廷珉\*\*

〈 Abstract 〉

## Characteristics of Suspended Clauses in Japanese and Korean Translated Edition of English Movie Scripts

The aim of this paper is to analyze suspended clauses(SCs, henceforth) by examining their characteristics in Japanese and Korean translation of English movie scripts and clarify how they differ from each other. First, the overall frequencies of SCs in Japanese and Korean were counted. Then, with focusing on high ranked four SCs, their uses and correspondences between two languages were analyzed. The findings of this study are summarized as follows.

(i) The overall frequencies of Korean SCs(317 tokens) are greater than those of Japanese(196 tokens).

(ii) High ranked four SCs in each language are as the following order:

Japanese: *kara* (28.06%) > *kedo* (19.39%) > *ga* (12.76%) > conditional connective (9.69%)

Korean: *nuntey* (27.44%) > *tako* (21.45%) > *ketun* (12.30%) > *ko* (9.78%)

(iii) Japanese *kedo/ga* and Korean *nuntey* are similar in that they are used to provide background information about following utterance and avoid direct denials toward a hearer. Differences are found in that *nuntey* tends to be added to modality (e.g. *kes kat-untey*) when a speaker expresses his/her opinion, while Japanese *kedo* does not (e.g. *kamosirena*).

(iv) Korean *tako* is frequently used to express a speaker's negative stance, while Japanese final predicate from (*syushikei*) is employed in such a case. Although *ko* and Japanese *shi* resemble each other, *ko* tends to be employed more frequently to express the relevance to the preceded utterance than *shi*.

(v) Japanese *kara* is corresponded to Korean *ketun* or *l/ul kkey*; the former is when to explain reason, and the latter is to give premise for the addressee to urge his/her action.

(vi) The usage of Japanese *tara* indicating a suggestion lacks in Korean conditional SCs. *Nakereba(nakya)* expressing obligation/intention is corresponded to *-a/eyā-keyss* in Korean.

Field : Pragmatics

Keywords : Suspended clauses, English movie scripts, Translated edition, Contrastive study, Frequency

\* 本研究は韓国日本語学会第38回大会(2018年9月15日、於韓国中央大学)において口頭発表を行った内容に修正・加筆を施したものである。また、本研究は日本学術振興会(JSPS)科学研究費補助金(若手研究(B)課題番号: JP16K16830)の助成を受けて行われたものである。

\*\* 亜細亜大学准教授、日本語学・対照言語学

## 1. はじめに

本稿の目的は日本語と韓国語の中断節の現れ方を比較し、その特徴を考察することである。中断節に関してはこれまで日韓個別言語内において様々な観点から研究が行われてきた(高橋1993、白川2009、구현정・이성하2001、장경현2010など)が、近年は言語類型論の分野においても注目を浴びている(Evans2007、Evans&Watanabe2016)<sup>1)</sup>。

一方で日韓対照の観点から中断節を取り上げた研究は、特定の形式、たとえば「けど」と「는데」に焦点を当てたPark(1998)、映画字幕やドラマの台詞を用いて比較を行った曹(2002)、千葉(2007)<sup>2)</sup>、両言語母語話者の自然会話を分析した高木(2013)などがある。これらの先行研究ではそれぞれ興味深い考察が行われているが、研究目的や分析手法、特に分析に用いるデータのジャンル次第で導かれた結果が一樣ではないため、両言語の中断節の使用様相を客観的にとらえることはなかなか難しいと思われる。

そこで本研究では、日韓対照研究を行う上での1つの方法論として、英語を起点言語とする映画台詞の日本語・韓国語対訳集を用いて、同文脈・状況下における中断節の現れ方について対照分析を試み、両言語の類似点と相違点を明確にしたい<sup>3)</sup>。

本稿の構成は次のとおりである。2節では調査概要と方法を説明し、その結果を日本語と韓国語の順に示す。3節では調査結果を踏まえて用例分析を行い、文法化および言語類型論における知見を援用した両言語における中断節の現れ方と対応関係を考察する。最後に4節では本研究で得られた結果をまとめる。

## 2. 調査方法と結果

### 2.1 調査方法

本研究の調査概要は次のとおりである。英語を原言語とする映画3作品『Notting Hill』『Love Actually』『Devils in Prada』のそれぞれ日本語訳、韓国語訳集のChapter1~7までを対象に中断節の用例を収集した<sup>4)</sup>。英語原作の映画作品は枚挙にいとまないが、これらの3作品を選んだ理由は日韓両国において対訳集が正式に刊行されている映画作品に限定したからである。

調査対象とした中断節の種類は、日韓両言語の先行研究(高橋1993、白川2009、손옥형・김영주2009、

1) 中断節という用語の定義およびこれまでの研究動向については金(2015, 2016)を参照されたい。

2) これらの研究では「お名前は?」のような助詞どまり表現を含めた「言いさし」全般を扱っているが、本研究では助詞止まりの表現は扱わない。

3) 英語を基準としてその日本語訳と韓国語訳を分析対象とすることは、日韓語対訳資料を用いることと大差がないという見解もある。しかしながら、英語から日本語・韓国語それぞれの対訳を用いた場合、翻訳を担当した訳者が英語と該当言語のみを踏まえて翻訳を行った可能性が高い。一方、日韓対訳資料を用いると訳者は日韓両言語の高い運用能力を備えていることに加え、両言語を考慮した翻訳を行うため、訳者の両言語に対する直観や内省などがなんらかの形で訳出に影響した可能性がある。したがって、本研究では対訳において日韓両言語間の影響がより少ないと考えられる英語を基準言語とした日本語・韓国語への対訳を、研究材料として用いることとした。なお、本研究は日韓対照を目的とするもので、議論を過度に込み入ったものにならないために訳出表現に対する受け取り方(容認度)の個人差については考慮しない。

4) 以下、『Hill』『Love』『Prada』と略記する。書誌情報の詳細は稿末に示す。

Narrog2016などを踏まえて、日本語は「けど」「が」「から」「ので」「のに」「し」「て」<sup>5)</sup>「と/たら/ば」(以下「条件形」とする)に加えて、「たりして」「って」「って?」「とか」を含む合計12種類である。韓国語は「는데」「지만」「거든」「니까」「고」「아/어서」「다니까」「다고」<sup>6)</sup>「듣가/듣지」を分析対象とした。ただし、疑問詞を伴う疑問文の用法を有する「는데」「고」<sup>7)</sup>「다고」の3つの形式は、平叙文との区別をつけて「는데?」「고?」「다고?」と別途分類し、合計12種類を抽出した。

日韓両言語は形態・統語論的に類似性が多いゆえに、上掲の中断節に関しても一般的に「けど」と「는데」、「から」と「니까」などのように形態論的(表面上)に対応する形式を同定(想定)できる。しかし、果たしてこれらの中断節が、同文脈・シーンにおいてどの程度の類似性を見せるのだろうか。また、両言語において好まれる中断節には一定の傾向が見られるのだろうか。

このような疑問を研究の出発点とし、本研究ではまず、日韓それぞれの対訳に用いられる中断節の生起頻度を調べた。次に、日本語と韓国語の両方において中断節が用いられた場合、日韓いずれかの言語にのみ中断節が使用された場合に分けて、中断節の種類別頻度および、両言語間の対応関係を調べた。次節ではその結果を順に提示する。

## 2.2 調査結果

まず、日本語・韓国語訳に見られる中断節の種類と頻度を調べた結果を、生起頻度の高い順に並べ替えて示す。

<表1> 日本語の中断節の生起頻度

形式	頻度(%)
から	55 (28.06)
けど	38 (19.39)
が	25 (12.76)
条件形	19 (9.69)
て	12 (6.12)
って?	12 (6.12)
し	11 (5.61)
ので	9 (4.59)
のに	9 (4.59)
とか	3 (1.53)
って	2 (1.02)
たりして	1 (0.51)
<b>合計</b>	<b>196 (100.0)</b>

<表2> 韓国語の中断節の生起頻度

形式	頻度(%)
는데	87 (27.44)
다고	68 (21.45)
거든	39 (12.30)
고	31 (9.78)
다고?	27 (8.52)
는데?	18 (5.68)
아/어서	17 (5.36)
다니까	14 (4.42)
니까	8 (2.52)
지만	4 (1.26)
고?	2 (0.63)
듣가/듣지	2 (0.63)
<b>合計</b>	<b>317 (100.0)</b>

5) 「て」の場合「今すぐ電話して」のような相手への命令を表す用法を中断節に含めるかどうかについては研究者によって議論が分かれる。本研究では白川(2009:142)、Narrog(2016:253-254)に見做い分析対象から除外した。したがって日本語の「て」に類似の用法を有する韓国語の「고」についても、「오늘 밤에 우리 집 에다 책 좀 갖다 놔. 키는 에밀리한테 반고」(『Prada』Ch:5)のように先行文脈に加えて相手への命令や依頼を述べる用例は分析対象外とした。

6) 韓国語の場合、文のタイプを決定づける終結語尾の種類によって「-다/냐/자/라니까」「-다/냐/자/라고」に分けられるが、便宜上それぞれの代表形として「다니까」「다고」と表記する。

7) Park(1998)は疑問詞を伴う「는데」疑問文は日本語には見られない韓国語独特の用法であるとした上でその談話機能を分析している。「고」疑問文の用法についてはKim Mary Shin(2015)を参照されたい。

〈表1〉と〈表2〉を見ると、日本語は196例、韓国語は317例見られ、全体的な生起頻度は日本語に比べて韓国語のほうが高い。また、頻出の上位4つまでの中断節の種類に注目すると、日本語は「から(28.06%)>けど(19.39%)>が(12.76%)>条件形(9.69%)」の順、韓国語は「는데(27.44%)>다고(21.45%)>거든(12.30%)>고(9.78%)」の順である。

次に、日韓対訳両方において中断節が使用された場合、日本語または韓国語いずれかのみに中断節で訳された場合に分けてそれぞれの頻度を調べた。その結果を〈表3〉に示す。

〈表3〉 対訳集に見られる中断節の使用状況

分類	用例数
(I) 日韓語ともに使用	71
(II) 日本語にのみ使用	125
(III) 韓国語にのみ使用	246

〈表3〉からわかるように、日韓語とも中断節が使用された例は71例、日本語訳にのみ中断節が用いられて韓国語訳には中断節以外の形式で訳された例が125例、その逆は246例見られた。次に、〈表3〉の(I)について、中断節の種類別対応関係の詳細を調べた。その結果は〈表4〉に示される通りである。

〈表4〉 日韓ともに中断節が用いられた場合の分布

	から	けど	が	条件	て	って?	し	ので	のに	って	たりして	合計
는데	3	10	10	—	—	—	—	—	2	—	—	25
다고	1	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	3
거든	10	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	11
고	1	1	1	—	1	—	3	—	—	—	—	7
다고?	—	—	—	—	—	7	—	—	—	—	—	7
는데?	—	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	2
아서	2	—	—	1	3	—	—	2	—	—	—	8
다니까	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
니까	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
지만	—	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	3
든지	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	2
合計	19	13	13	2	4	8	5	2	2	2	1	71

〈表4〉より読み取れる大まかな傾向は、韓国語の「는데」中断節が使用された文脈において日本語では「けど」と「が」が、「거든」には「から」が、「다고?」には「って?」が用いられているということである。

次に、〈表3〉の(II)日本語のみ、(III)韓国語のみに中断節が使用された場合、それぞれ韓国語訳と日本語訳ではどのような形式が用いられたのかを調べた。その結果は〈表5〉と〈表6〉の通りである。なお〈表5〉と〈表6〉における「終止形」とは用言(述語)に「는데」「니까」「けど」「から」などの連結語尾(接続形式)が付いていないものを指す。また、韓国語では「-지/네/군/구나/단다/르게」などいわゆる「終結語尾」が、日本語では「ね/よ/わよ」などの「終助詞」が下接した場合も「終止形」と同定する<sup>8)</sup>。「複文」とは、連結語尾(接続形式)が従属節内に生起して複文構造になっている場合を指す<sup>9)</sup>。日

本語の「のだ」(バリエント「んだ」「の」も含めて)および「のだ」に終助詞が下接したものは別途分類した。これらのほかに意識や言い回しなどが使用された場合などを含めて「その他」に分類した。

〈表5〉日本語の中断節使用例に対応する韓国語の形式

形式	終止形	아/어아(烈)	複文	その他	合計
から	32	—	—	5	37
けど	21	—	1	2	24
が	5	—	1	6	12
条件形	6	8	—	1	15
て	8	—	—	1	9
って?	3	—	—	1	4
し	5	—	—	1	6
ので	6	—	—	1	7
のに	4	—	—	3	7
とか	3	—	—	—	3
って	1	—	—	—	1
<b>合計</b>	<b>94</b>	<b>8</b>	<b>2</b>	<b>21</b>	<b>125</b>

〈表6〉韓国語の中断節使用例に対応する日本語の形式

	終止形	のだ	疑問詞	複文	その他	合計
는데	42	11	1	—	11	65
다고	42	16	—	2	5	65
거든	4	19	—	1	2	26
고	15	4	1	2	3	25
다고?	5	10	1	1	3	20
는데?	3	3	7	—	2	15
아/어서	3	4	—	—	2	9
다니까	6	3	—	—	3	12
니까	2	2	—	—	2	6
지만	—	—	—	1	1	2
고?	1	—	—	—	—	1
<b>合計</b>	<b>123</b>	<b>72</b>	<b>10</b>	<b>7</b>	<b>34</b>	<b>246</b>

〈表5〉を見ると日本語にのみ中断節が使用されている場合に韓国語では「終止形」の使用例がもっとも多い。〈表6〉では韓国語訳のほうに中断節が用いられている場合、日本語の対応形式は「終止形」と「のだ」の2つに集約されていることが分かる。以上、日韓対訳集に見られる中断節の種類と頻度を調べ

8) 日韓両言語の述語構造の詳細については高木(2018:41-42)、金珍娥(2019)を参照されたい。

9) 複文構造とは次の例にみるように、韓国語では「다고」を用いた中断節で訳されているのに対して、日本語では「って」のあとに主節「どういことですか」が続いた場合を指す。

(例)Andy: What do you mean, nothing is flying out?

1便も飛ばないって、どういことですか?

한 편도 못 뜬다고요? 그게 무슨 말씀이세요?

た結果を見てきた。

### 3. 分析と考察

ここでは2節の調査結果に基づき、いくつか論点を絞って、文法化の意味変化、言語類型論における中断節の知見を参照し、日韓両言語の特徴について考察を進めたい。

まず、両言語における中断節の出現頻度を比較する。言語類型論的に中断節を分析した Evans&Watanabe(2016:30-31)は、日本語と韓国語のように従属節が主節より先行する言語では中断節が発達しやすく、間接的なコミュニケーションのスタイルを好む言語ほど中断節が多用されるとし、その代表例として日本語を挙げている。また、一般的に日本語は中断節に限らず、相手への配慮や気遣いを表し、断定回避の表現(例:「みたいな」「かも」「たりして」など)を好むという指摘がなされてきた(佐竹1997、メイナード2008など)。

これらの指摘を踏まえて改めて〈表1〉と〈表2〉(2.2節参照)の結果に注目すると、今回の調査では、むしろ韓国語のほうが中断節の使用頻度が高く現れた点は興味深い。日韓の自然会話を分析した金珍娥(2019)においても、本研究と同様に日本語に比べて韓国語のほうが接続形(=本研究でいう中断節)を多用していることが指摘されている。ただ、同研究は20代、30代の初対面の会話に限定した調査結果であるため、本研究との単純比較は難しいが、今回の調査を通して韓国語の中断節への選好性が改めて示唆されたのではないかと考える。

次に、議論の便宜上、生起頻度の少ない中断節は脇に置き、(1)に示す生起頻度の高い上位4つの中断節を分析対象として、(2)に論点を絞って考察を行う。頻度に着目する理由は両言語において好まれる中断節の種類の明確化への狙いと、当該形式の文法化の定着度を測るうえで頻度が1つの重要なものさしになるからである(Bybee2003)。

#### (1) 生起頻度の高い上位4つの形式

日本語: から(28.06%) > けど(19.39%) > が(12.76%) > 条件形(9.69%)

韓国語: 는데(27.44%) > 다고(21.45%) > 거든(12.30%) > 고(9.78%)

#### (2) 考察のポイント

- (I) 日韓語共に頻出中断節「けど」「が」と「는데」の関係
- (II) 日本語の頻出中断節「から」に対応する韓国語の表現
- (III) 韓国語の頻出中断節「다고」と「고」に対応する日本語の表現
- (IV) 条件形中断節の意味変化に関する日韓対比

#### 3.1 日韓語共に頻出中断節「けど」「が」と「는데」の関係

まず、日韓両言語において生産性が高く現れた韓国語の「는데」と日本語の「けど」「が」に注目する。〈表4〉を見ると両者が対応の傾向にあるのに対して、〈表5〉と〈表6〉では両形式の使用文脈が必ずしも共通していない可能性が示唆されている。

具体例を見ると、(3)のように日本語では「の(ん)ですが/けど」、韓国語では「는데(요)」が続く発話の「前置き」として用いられる点で共通している。以下、例文は原文の英語、日本語訳、韓国語訳の順

に提示する。

(3)Andy: Um, excuse me. I'm looking for James Holt.

あの、すみません。ジェイムズ・ホルトさんを探しているのですが。

실례합니다. 제임스 홀트 씨를 찾는데요.

Woman: Um, that's him right there.

えーと。ちょうどあそこにいるのが彼よ。

저기 있네요. (『Prada』:Ch5)

また、(4)の相手からの要求や依頼に対する返答として、直接的な断りを避けて言葉を濁すようなシーンに用いられる点でも「けど」と「는데」は平行的である。

(4)Juliet: Can I come in? / 入っていい? / 나 들어가도 돼?

Mark: Er, year, well, I'm a bit busy….

あの、そう、えっと、ちょっと忙しいんだけど…

어…어…좀 바쁜데……

Juliet: I was just passing and I thought we might check that video thing out.

ちょうど通りがかって、あのビデオのことを確認できるかなって思ったの。

지나가다가 비디오 한번 찾아보면 어떨까 해서 들렸어. (『Love』:Ch4)

しかし〈表5〉〈表6〉を見ると、これらの形式が同場面で使用されている例よりも、日韓どちらの言語においても「終止形」が対応している例のほうが多い。次の(5)と(6)を見られたい。話者自身の意見や判断を述べる文脈において、韓国語では断言を避けるモダリティ形式「것 같다」(ようだ/みたいだ)にさらに「는데」を付加した表現が好まれるのに対して、日本語では「けど」の随伴なしに(5)「かもしれない」、(6)「と思う」のモダリティ形式のみで訳されている場合が多く見られた。

(5)William: What are the choices? / その選択肢はどれだい? / 무슨 셔츠인데?

Spike: Well… wait for it…First there's this one…Uh… cool, huh?

よし… 見て驚くなよ…まず最初は、これだ。かっこいいだろ?

글쎄… 잠깐만… 우선 이것은……. 멋있지, 응?

William: Yeah, might make it hard to strike a really romantic note.

ああ。うーん…これはもしかしたら、とてもロマンチックな感情を印象付けるのを難しくしてしまうかもしれないな。

그래, 하지만 낭만적인 분위기를 내기는 좀 어려울 것 같은데.

Spike: Point taken. / もっともな意見だ。 / 일리가 있군. (『Hill』:Ch1)

(6)Nigel: I guessed an eight and a half. / 8.5だと見たが。 / 8반 사이즈, 맞지?

Andy: Um, uh, that's very nice of you. But I don't think I need these.

あら、まあ、ご親切にありがとうございます。でも…、私には必要ないと思います。

정말 감사합니다만. 전 이게 별로 필요 없을 것 같은데요. (『Prada』:Ch2)

もちろん日本語でも「と思いますが/けど」のように「けど」「が」を用いて表現することができるが、今回の調査結果では上記のような場面において、日本語よりも韓国語のほうが、より婉曲的な表現を多用していることが分かった。

### 3.2 日本語の頻出中断節「から」に対応する韓国語の表現

次に、日本語訳において生起頻度の最も高い「から」について考察する。〈表4〉の日韓両方に中断節が使われている場合において、「から」に韓国語の「거든」が対応する例が10例見られた。例えば「から」と「거든」は(7)~(8)のように、先行発話に対する理由や背景事情を説明するシーンに用いられる点で共通性がある。

(7) Jamie: I'm very lucky I've got one of those constitutions where I never put on weight.

僕はすごくラッキーなんだ。よくある、全然太らないっていう体質だから。

난 다행이에요. 살이 안 찌는 체질이거든요.

(8) Spike: She said, "Hi, it's Anna." then she said, "Call me the Ritz"… and then gave herself a completely different name.

彼女は言った、「こんにちは、アナよ」それで彼女は言った、「私あてにリッツに電話して」、それで全く違う名前を名乗ったんだ。

그 여자가, “안녕하세요 만나예요” 그리고 “리츠로 전화 좀 부탁해요” 하더니 전혀 다른 이름을 주더라고.

William: Which was? / 何だった? / 어떤 것이었는데?

Spike: Absolutely no idea. Remembering one name is hard enough…

全く覚えていない。ひとつの名前を思い出すのも十分難しいからなあ…

전혀 생각이 안나. 이름 하나 기억하는 것도 정말 힘들거든.

一方、〈表5〉では「から」中断節と韓国語の「終止形」との対応例は32例現れた。例えば(9)では、誕生日を迎えたAndyが聞き手のLilyに、自分を待たずに先に誕生日のパーティーを開始してほしいと、「聞き手にある行為を実行に移すための(略)前提情報」(白川2009:67)として「できるだけ早くいく」という旨を「から」中断節で以って提示している。

これに対して韓国語では中断節を用いず、話し手の意志表出や相手への約束の意を表す終結語尾(이의 습2005:182-184、국립국어연구원2005:776-777)、「-리/을게」を用言の語幹に承接させた「終止形」を使用している点で違いが見られた。

(9) Andy: I have to learn all these by tonight? (略) Look, you better just start without me, okay? I'll get there as soon as I can.

今晚までにこれ全部覚えるの? (略) ねえ、私抜きで始めておいて、いい? できるだけ早くそっちに行くから。

이걸 오늘 밤까지 다 외우라고? (略) 그냥 나 빼고 먼저 시작하고 있어, 알았지? 최대한 빨리 가도록 할게.

Lily: Andy, come on, it's his birth... Okay, but hurry.

アンディ、そんなのないわ。彼の誕生...わかった。でも急いでね。

앤디, 어떻게 그래, 그의 생일... 알았어, 빨리 와. (『Prada』:Ch6)

このような背景について本研究では、日本語と韓国語の述語の形態的体系の違いに起因しているものとする。例えば日本語の動詞の基本形(終止形)のムードは、叙述以外にもコンテキストによって、意志や命令を表す場合もある(須田2014:12)。例えば「行く」という動詞を例に挙げると、「明日私は東京に行く。」と言った場合は話者の意志表出を、「さっさと行く！」は相手への命令を表すということになる。

仮に(9)の「行くから」を「行く」という言い切りの終止形にすると、「話者の意志を一方向的に聞き手に宣言する」(日本語記述文法研究会2003:56)ことになってしまう。しかし、(9)は「できるだけそっちに早く行く」という旨を伝えつつ、聞き手への念押しの意味を帯びている場面であるので、終止形のみによる発話の終結は不適切である。そのため、聞き手を意識した対人的(間主観的)な意味の実現は「から」が具現化しているものだと考える。

一方、韓国語の基本形「가다」は、叙述のムードは終結語尾「다」によって実現される。また、自分の意志表出や相手への約束を表す場合には「ㄹ/을게」という専用の終結語尾が存在する。したがって、日本語の「から」と形態的に類似する形式、「니까」を用いずとも専用の終結語尾を用いることによって、自分の意志と相手への約束の意味を十分伝えることができるのではないかと考える。

### 3.3 韓国語の頻出中断節「다고」と「고」に対応する日本語の表現

ここでは韓国語のほうで使用頻度が高く表れた「다고」と「고」を取り上げる。まず、日本語との顕著な差が見られた「다고」について考察する。〈表6〉において「다고」のほとんどが日本語では「終止形」(42例)と「のだ」(16例)に偏っていた。以下(10)と(11)を見られたい。

(10)Bernie: Max, I'm sorry I'm late. Bollocksed up at work again, I fear. Millions  
down the drain.

マックス、遅れてすまん。まずいことに、また仕事でドジってしまった。

何百万も台無しだ。

안녕. 늦어서 미안해. 망할 놈의 일 때문에 또 늦었다구. 수백 만불이 날아갔지.

Max: Well done. Bernie, this is Anna.

よくやったな。バーニー、こちらアナ。

그래. 버니, 안녕하세요.

(11)Andy: I don't know what else I can do because if I do something right, it's  
unacknowledged. She doesn't even say thank you. But if I do something  
wrong, she is vicious.

違うの、私、もうどうしていいのかわからない。だって、ちゃんとやっても認め  
てもらえないもの。お礼も言ってもらえないのよ。なのに失敗したらすぐ意地悪なの。

더 이상 제가 뭘 어떻게 해야 할지 모르겠어요. 제가 일을 잘하면 무시해 버리

고 고맙다고도 안 해요. 하지만 제가 뭘 조금만 잘못하면 썩 난리를 치고

Nigel: So quit. / だったら辞めろ. / 그럼 때려 치워.

Andy: What? / え? / 네?

Nigel: Quit. / 辞めろ. / 그만두라고

(10)は約束に遅れてきたBernieがMaxに謝るシーンであるが、仕事のせいで遅れてしまったことに対して、話者自身の苛立ちを表出している。(11)は話者の発話を十分理解していない相手に再度発話を繰り返す場面である。いずれも韓国語では「다고」が用いられているのに対して、日本語では言い切りの「終止形」が使用されている。

「다고」はもともと相手の発話や考えを引用する形式であるが、中断節として使われた場合は、話者の主張を強く述べたり、苛立ちや不満といった話者の否定的な心的態度を表す主観化への意味変化が起こっている(Rhee2008など)。日本語にも「다고」に相当する「って」があるが、そもそも「って」中断節の生起頻度が非常に少なく(〈表1〉参照)、(10)の話者の心的態度を表す場面や(11)のように自分の発話を繰り返す場面において、日本語訳のほうではほとんど「裸の終止形」ないしは「終助詞」を伴う「終止形」が用いられている点で韓国語と大きな違いが見られた。

次に「고」に対応する日本語の表現について分析する。〈表4〉に再度注目すると、「고」中断節が用いられた文脈において、日本語でも中断節で訳されている例は7例出現していた。そのうち、「し」中断節との対応例が3例、「けど」「が」「から」「て」の対応例がそれぞれ1例ずつ見られた。

一方、〈表6〉において韓国語では「고」で終結している場合、日本語では「終止形」が対応している例が15例と、最も多い。以下ではその理由について考えてみたい。「고」と「し」は両方とも(12)羅列・列挙、(13)先行文脈への追加・補足の際に用いられる(金2015,2017)。しかし、(12)をより詳細に観察してみると、同じく羅列・列挙を示す場合であっても、韓国語では「보수도 형편없고, 글도 안 쓰고」のように、「~고 ~고」というパターンで繰り返すのに対して、日本語訳では前者には「し」、後者のほうには「終止形」で訳されている例が多く見られたことが1つの原因として考えられる。つまり、(12)ではRichardがAndyに対して、「お前がちよっと心配なんだよ」と言った理由を列挙しているが、韓国語のほうでは「고」中断節で締めくくることにより、「給料がひどい」「執筆もしていない」のほかにもまだまだ理由があることを聞き手に暗示させている。

(12)Richard: We're just a little worried, honey. We get e-mails from you at your office at 2 a.m.

Your pay is terrible. You don't get to write anything.

우린 네가 좀 걱정 된다, 애야. 새벽 2시에 회사에서 메일을 보내지 않나. 보수도 형편없고, 글도 안 쓰고….

私たちは、お前がちよっと心配なんだよ。夜中の2時にオフィスからメールを送ってくる。給料はひどいし、執筆もしていない。

Andy: Hey, that's not fair. I wrote those e-mails.

ちよっと、そんなことないわ。メール書いたじゃない。

이런, 그건 공평치 못해요. 이메일도 글이에요.(『Prada』:Ch3)

(13)Emily: (略)um…most importantly, um…I get to go with her to Paris for Fashion

Week in the fall. I get to wear couture. I go to all the shows and all the parties. I meet all of the designers.

(略)でもね、一番重要なのは、そう、秋のファッションウィークに彼女に同行してパリへ行くことよ。オートクチュールを着て、あらゆるショーやパーティに出かけるの。デザイナーにもいっぱい会うし。

(略)그리고 음…중요한 건, 내가 편집장님과 가을 패션 주간에 파티에 간다는 거야. 명품으로 감고 우아한 패션쇼와 파티에 참석할 거라고 모든 디자이너도 만날 거고 (『Prada』:Ch7)

また、(13)と同様に先行文(脈)への追加・補足の用法であっても、日本語では(14)のように発話を「終止形」で終結している場合が多い。

(14)Natalie: I was hoping you'd win, not that I wouldn't have been nice to the other bloke, too  
Just always given him the boring biscuits with no chocolate.  
あなたが勝つと良いなって思っていました。だからと言ってもう1人の方に親切にしないつもりだったわけでもないです。  
저는 선거에서 수상님이 이기시길 바랐어요. 제 뜻은 다른 분이었다면 제가 성실하지 않을 거라는 것은 아니고요.

以上を踏まえると、「고」と「し」を比べた金(2017)では、韓国語のほうが「고」を用いることによって、先行文(脈)への関連性をより明示的に示す傾向にあることを指摘したが、今回の調査結果においても金(2017)を支持する結果が得られた。

### 3.4 条件形中断節の意味変化に関する日韓対比

最後に「条件形」中断節について考察したい。日本語には「たら」「ば」「と」など、韓国語には「-거든」<sup>10)</sup>「-(으)면」「-다면」「-아/어야」など条件を表す形式が複数存在する。ここでは「거든」がもともと条件を表す連結語尾である点と、今回の調査結果において生産性が高い点(〈表2〉参照)を踏まえて、「거든」も考察対象に含めて議論を進める。

Evans(2007)によると、慣習化された中断節は従属節の意味とは異なる新しい意味を獲得するとし、その例として条件節は通言語的に中断節になりやすく、特に要求や提案の意味を体現する場合が多い<sup>11)</sup>。この点を踏まえて今回の分析対象とした「条件形」中断節の意味拡張に注目して日韓対比を行いたい。

〈表5〉と〈表6〉を見ると、日本語の条件形中断節の出現例に対して韓国語の対応表現は「終止形」または「-아/어야겠」<sup>12)</sup>という表現に集約されていることが分かる。以下に例を挙げる。まず、日本語の「たら」はもともと仮定的条件を表す接続形式であるが、(15)では聞き手への提案や勧誘を表す、一種の対人的モダリティ(白川2009)へと機能拡張している。

10) 「거든」はもともと条件を表す連結語尾で知られている(구현정・이성하2001, 남미정2010など)。しかし、구현정・이성하(2001)は「거든」を連結語尾から終結語尾へと文法化したものと位置付けているのに対して、남미정(2010)は「거든」が連結語尾から終結語尾へと文法化したわけではなく、もともと条件のほかにも理由や状況提示の意味を表す用法があったが、前者が「連結語尾」に、後者のほうが「終結語尾」へと2分化したと主張している。

11) イギリス英語のif中断節の意味拡張を行ったLastres-Lopez(2018)も、if中断節が要求、勧誘、提案の意味を獲得していることを明らかにしている。

(15)Karl: Will it make him better?  
 :それで彼が良くなるの?  
 : 전화를 받으면 좀 나아져요?

Sarah: No. / いいえ. / 아니요.

Karl: Then maybe...don't answer.

じゃあ…出ないでおいたら?

그러면 전화 받지 말아요. (『Love』:Ch5)

また、(16)「~なきゃ(なければ)」はもともと「~しなければならぬ/いけない」の後半部の述語「いけない、ならぬ」が省略された形で、義務や話者の意志を表す(日本語記述文法研究会2003:108、Narrog2016、김지현2018)。

(16)Jamie: Just stop! Stop! /もうやめろ。やめてくれ。/됐어요. 이제 그만해요.

Aurelia:What kind of an idiot doesn't make copies?

コピーも取らないなんてどんなバカなの?

사본도 안 만들어 놓은 바보가 어딴어요?

Jamie: I really must do copies.

ちゃんとコピーを取らなきゃな。

정말 복사를 해두어야겠네. (『Love』: Ch4)

一方、韓国語のほうはどうだろうか。上述したように韓国語にも複数の条件形式が存在するが、条件形由来の中断節の意味獲得の詳細は必ずしも日本語と同様ではないように思われる。たとえば(15)を見ると、「たら」中断節が体现する「提案」「勧誘」の意味は韓国語の条件形由来の中断節には備わっていないため、直接的な命令表現「전화 받지 말아요」(電話を受け取らないでください)が用いられている<sup>12)</sup>。

しかし、(16)「コピーを取らなきゃ」の話者の「義務」「決意」を表す文脈に対しては、条件や譲歩の意味を表す語尾「-아/어야-」に、意志や推測を表す先語末語尾「-겠-」が結合した「-아/어야겠」(국립국어연구원2005:533-540)という形式が対応されている<sup>13)14)</sup>。

12) 「たら」中断節に類似の機能を有する形式に「듣가/듣지」がある(Kim Minju2018)が、今回の調査では出現例が非常に少なかったため、ここでは現象の指摘にとどめ、稿を改めて論じることにした。

(例)Karen: Listen, it was always going to be a totally shit time. Just be patient.

And maybe check the room for needles.

いい?まったくひどい時期っていうのは必ず来ることになってたのよ。焦ることな

いわ。それから注射針があるかどうか部屋をチェックしてみたら?

안 좋을 때는 항상 있어. 우선 인내심을 가져. 그리고 혹시라도 바늘이 있나 방을 한번 뒤져보

듣가. (『Love』: Ch2)

13) ほかに「-야-」に終結語尾「-지」が結合した「-야지」という形式がある(국립국어연구원 2005:533-540, 김지현2018)。

14) 近年「-아/어야」が単独で文を終結している例が新聞の見出しにおいて観察される(김지현2018)。「외국인 주민 170만 시대 보험업계 주목해야」(外国人住民170万時代 保険業界注目すべき)「외국인 순유입,(略)새

一方、もともと条件を表していた「거든」は、現代韓国語の話し言葉において頻出され、先行発話に対する根拠や理由提示、事情説明、(im)politeness効果など、使用文脈によって様々な語用論的意味を体現している(구현정・이성하2001, Kim&Suh2010, Kim Ahrim2015など)<sup>15</sup>。しかし、「거든」には日本語の「たら」に見られる「提案」「勧誘」への意味拡張は観察されない。

以上をまとめると、条件形が中断節になりやすく、習慣化された中断節は本来の条件の意味とは異なる新たな意味・用法を獲得する、という通言語学的な現象に日韓語ともに符合すると言える。しかしながら、韓国語の条件形中断節には言語普遍的に獲得しやすいとされる「提案」「勧誘」(Evans2007)への意味拡張は見られないこと、逆に日本語の条件形中断節には「거든」の呈する豊富な語用論的意味が具現化されない点で、微妙な相違点が観察された。

## 4. おわりに

本研究では日韓両言語の中断節の現れ方の実態を調べるために、英語を原言語とする映画台詞の日本語・韓国語対訳集を分析資料として用いて対比を行った。その結果は以下のようにまとめられる。

(I) 出現頻度：韓国語(317例) > 日本語(196例)

(II) 頻出の中断節の上位4つの形式

- ・日本語：から(28.06%) > けど(19.39%) > が(12.76%) > 条件形(9.69%)
- ・韓国語：는데(27.44%) > 다고(21.45%) > 거든(12.30%) > 고(9.78%)

(III) 両言語ともに使用頻度の高い「けど」「が」と「는데」の関係

前置き表現や直接的な断りを避ける場合に使用される点で共通。

話者の意見を述べる際に韓国語ではモダリティ形式にさらに「는데」を付加するのに対して、日本語はモダリティ形式のみで終結する傾向が観察された。

(IV) 日本語の頻出中断節「から」に対応する韓国語

先行発話への理由提示には「거든」と対応。

相手の行動を促す前提条件の提示には約束の語尾「-ㄴ/을게」が対応。

(V) 韓国語の頻出中断節「다고」と「고」に対応する日本語

話者の否定的な心的態度の表出において「다고」が多用。一方、日本語ではほとんど「終止形」が用いられる。

「고」と「し」は両方とも羅列・列挙、追加・補足を表す点で対応。しかし、韓国語のほうが「고」を用いて先行文脈との関連性をより明示的に示す傾向がある。

---

로운 고객군 인식, 특성 파악해야」(外国人純流入、略)新しい顧客群認識、特性把握すべき) (「머니투데이」2019年5月19日の記事)のように、「-아/어야 하다」(しなければいけない)の述語「하다」が省略され価値判断、義務を表す点で興味深い。日本語の「～なきゃ(～ないと)」との対照分析は今後の研究課題としたい。

15) 一方で남미정(2010)は「거든」が連結語尾から終結語尾へと文法化したわけではなく、もともと条件のほかにも理由や状況提示の意味を表す用法があったが、前者が「連結語尾」に、後者のほうが「終結語尾」へと2分化したと主張している。

## (VI) 条件形中断節の意味変化に関する日韓対比

韓国語の条件形中断節には「たら」のような提案・提案の意味獲得は欠如。

義務・意志表出の「~なければ(なきや)」には「-아/어야겠」が対応。

今後は日韓ドラマなどの吹き替えデータを用いた中断節の分析を行い、上記の結果と照らすことにより、両言語における中断節の全体像を明確にしていきたい。

## 【参考文献】

- 구현정・이성하(2001) 「조건 표지에서 문장종결 표지로의 문법화」 『담화와 인지』 8-1 담화인지언어학회 pp.1-19
- 국립국어연구원(2005) 『외국인을 위한 한국어 문법』 2 커뮤니케이션북스 pp.533-540, pp.776-777
- 김지현(2018) 「조건 어미 종결문에 관한 한일대조연구」 『언어과학연구』 85 언어과학회 pp.99-119
- 남미정(2010) 「국어의 문법화에 대한 재고」 『한국어학』 49 국어학회 pp.209-233
- 손옥형・김영주(2009) 「한국어 구어에 나타난 종결어미화 된 연결어미 양상 연구」 『한국어 의미학회』 pp.48-71
- 이익섭 (2005) 『한국어분법』 서울대학교출판부 pp.182-184
- 장경현(2010) 『국어 문장 종결부의 문체』 역락
- 金廷珉(2015) 「中断節『し』と『고』に関する日韓対照研究」 『日本言語文化』 33 韓国日本言語文化学会 pp.91-106
- 金廷珉(2016) 「日本語と韓国語における中断節研究の現状と課題」 『日本語文學』 68 韓国日本語文学会 pp.25-41
- 金廷珉(2017) 「発話末の『고』に対応する日本語の形式—ドラマの会話文を中心に—」 『日本語文學』 72 韓国日本語文学会 pp.91-108
- 金珍娥(2019) 「日本語と韓国語の談話における<述語文>の様相—<話されたことば>の文末を解析する—」 『朝鮮学報』 朝鮮学会 pp.85-138
- 佐竹秀雄(1997) 「若者ことばと文法」 『日本語学』 16(10) 明治書院 pp.55-64
- 白川博之(2009) 『「言いさし」文の研究』 くろしお出版
- 須田義治(2014) 「現代語の形態論的なカテゴリーにおける無標形と動詞基本形」 『日本語文法』 14(2) くろしお出版 pp.3-16
- 高木丈也(2013) 「日本語と朝鮮語の自然会話における『情報要求』を表す『中途終了発話』」 『朝鮮語研究』 5, くろしお出版 pp.253-282
- (2018) 『日本語と朝鮮語の談話における文末形式と機能の関係』 三元社 pp.41-42
- 高橋太郎(1993) 「省略によってできた述語形式」 『日本語学』 12(10) 明治書院 pp.18-26
- 千葉小百合(2007) 「한일어 중단 발화(言いさし)의 형태와 회화 기능에 대하여」 『日語日文學研究』 63 韓国日語日文学会 pp.529-549
- 曹英南(2002) 「韓日映画における言いさし表現の対照談話分析—談話機能の視点から—」 『日本語文学』 12 韓国日本語文学会 pp.95-114
- 日本語記述文法研究会(2003) 『現代日本語文法 4 第8部モダリティ』 くろしお出版 p.56, p.108
- メイナード・泉子・K(2008) 『マルチジャンル談話論 間ジャンル性と意味の創造』 くろしお出版
- Bybee, Joan L.(2003) Mechanisms of Change in Grammaticalization: the role of frequency, *The hand book of*

- Historical Linguistics*, Brain D. Joseph, and Richard D. Janda(eds), Blackwell Publishing, pp1-43
- Evans Nicholas(2007) Insubordination and its uses, *Finiteness: Theoretical and Empirical Foundations*, Irina Nikolaeva(ed.), Oxford:OUP, pp366-431
- Evans Nicholas and Watanabe Honoré(2016) The dynamics of insubordination. *Insubordination*, Nicholas Evans and Honoré Watanabe(Eds.), John Benjamins, pp.1-38
- Kim Ahrim(2015) Utterance-final *-ketun* in spoken Korean: A particle for managing information structure in discourse, *Journal of Pragmatics* 88, ELSEVIER, pp.27-54
- Kim Kyuhyun and Suh Kyunghee(2010) *Ketun* in conversation: soliciting news receipt as sequentially -motivated action, Shoici Iwasaki, *etal* (Eds), *Japanese/Korean Linguistics* 17, CSLI, pp.423-438
- Kim Mary shin (2015) A distinct declarative question design in Korean conversation: An examination of turn-final *ko* questions, *Journal of Pragmatics* 79, ELSEVIER, pp.60-78
- Kim Minju(2018) From connective to final particle: Korean *tunci* “or” and cross-linguistic *Journal of Pragmatics* 135, pp.24-38
- Lastres-López Cristina(2018) If-insubordination in spoken British English: Syntactic and pragmatic properties, *Language Sciences* 66, ELSEVIER, pp.42-59
- Narrog Heiko(2016) Insubordination in Japanese diachronically, *Insubordination*, Nicholas Evans and Honoré Watanabe (Eds.), John Benjamins, pp.247-283
- Park Yongyae(1998) Interactive Grammar: The Turn-Final Use of *nuntey* in Korean and *kedo* in Japanese, David J. Silva(Ed.). *Japanese/Korean Linguistics* 8, CSLI, pp.45-59
- Rhee Seongha(2008) Subjectification of Reported Speech in Grammaticalization and Lexicalization, *Harvard Studies in Korean Linguistics* 12, Harvard University, pp.590-603

### 【対訳集の書誌情報】

- 宮津多美子ほか(訳) 『ノッティングヒルの恋人』名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ180, 2017年初版第1刷, フォーインスクリーンプレイ事業部.
- 久米和代(訳) 『ラブ・アクチュアリー』名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ178, 2016年初版第1刷, フォーインスクリーンプレイ事業部.
- 亀谷太一ほか(訳) 『プラダを着た悪魔』名作映画完全セリフ音声集スクリーンプレイ・シリーズ 183, 2018年再改定版第1刷, フォーインスクリーンプレイ事業部.
- 성기완(訳) 『노팅 힐』 2009년2판第3刷, 스크린 영어사.
- 우수정(訳) 『러브앳츄얼리』 2009年初版第4刷, 스크린 영어사.
- 이일범(訳) 『악마는 프라다를 입는다』 2015년改訂版第1刷, 스크린 영어사.

## 〈 요지 〉

## 영어 대사의 일한 대역본에 사용된 중단절의 특징 분석

이 논문의 목적은 영어 대사를 각각 일본어와 한국어로 번역한 대역본에 나타난 중단절의 특징을 조사하고 양국언어의 유사성과 차이점을 명확히 하는 것이다. 먼저 한국어와 일본어 번역본에 나타난 중단절의 종류 및 빈도수를 조사하였다. 그 다음 빈도수가 높게 나타난 상위 4개의 중단절을 대상으로 그 용법을 조사하고 양국언어의 대응형식을 분석하였다. 그 결과는 다음과 같다.

- (i) 전체적인 중단절의 출현 빈도는 한국어 (317 개), 일본어( 196개 )로 한국어가 더 높게 나타났다.
- (ii) 상위 4위까지의 중단절의 종류는 다음과 같은 순으로 나타났다.  
일본어: から(28.06%) > けど(19.39%) > が(12.76%) > 조건형(9.69%)  
한국어: 는데(27.44%) > 다고(21.45%) > 거든(12.30%) > 고(9.78%)
- (iii) 「けど」 「が」 와 「는데」 는 뒷문장의 전제배경 제시, 직접적인 거절을 피할 경우 사용된다. 반면에 화자의 의견을 말할 때, 한국어 는 모달리티 형식에 「는데」 를 부가하는 반면(예: 첫 같은데), 일본어는 모달리티 형식만으로 발화를 종결하는 경향(예: かもしれない)이 나타났다.
- (iv) 「から」 가 선행문에 대한 이유를 언급할 경우에는 「거든」 과, 상대방에게 행동을 촉구하는 전제 조건을 제시할 때에는 「르/을게」 와 대응된다.
- (v) 한국어 「다고」 는 화자의 부정적인 태도 표시시 자주 사용되는 반면에 일본어는 대부분 「종지형」 이 사용된다. 「고」 는 「し」 와 대응되지만, 한국어가 일본어보다 선행문맥과의 관련성을 보다 명시적으로 표시하는 경향이 나타났다.
- (vi) 한국어의 조건형 중단절에는 일본어의 「たら」 와 같이 권유·제안의 의미 확장은 나타나지 않지만, 의무·의지 표시의 「なければ(なきゃ)」 에는 「-아/어야겠」 의 형태로 대응된다.

논문분양 : 화용론

키워드 : 중단절, 영화의 영어대사, 대역본, 대조연구, 빈도

■ 김정민(金廷珉)

亜細亜大学 准教授

kjm-0630@hanmail.net

■ 投稿日 :	2019년	6월	20일
■ 審査開始 :	2019년	7월	17일
■ 審査完了 :	2019년	8월	7일
■ 掲載確定 :	2019년	8월	9일